

第28回 野田みこしパレード参加団体

畠雨蛙みこし

野田には古くから農作を願う雨乞いと、厄病除けとして津久舞の行事が受け継がれていて、津久の重次郎(津久柱に登って舞う人)の扮する装束が雨蛙です。これをみこしとし製作したのが昭和7年のことでした。この年は大日照りで七夕(8月7日)に雨蛙みこしを担いで雨乞いをしたところ、実際に大雨がふりだして靈驗あらたかなことと喝采を浴びました。しかしコンクリート製で重すぎた事もお蔵入りとなり、現在のは二代目で昭和49年に作られたものです。

峠黒獅子みこし

昭和8年に製作された仲町黒獅子は、平成14年まで野田三ヶ町夏祭りに迎え獅子として活躍してきましたが、老朽化で修復が不可能となり平成15年上町の野口美樹氏により新獅子みこし完成となりました。新仲町黒獅子みこしは、高さ2.16m、巾2.1m、重さは330kgあり、黒色を基調に金色、赤色とバランスよく配色し、その姿は大きく迫力があり。これからの仲町区として大切な宝物です。

下金獅子みこし

金色に輝く大きい獅子は、昭和10年に製作されました。目玉や鼻の大切な箇所は細密に彫刻され、つむじや耳の回りには芯をいれて固めてあります。また、獅子の毛はマニラ麻を丁寧に櫛でよくといて、膠で元を固めて植え込んでいます。高さは2.5m、耳から耳までは2.7mあり、重さは330kgあります。この下町獅子は、上町の雨蛙と仲町の黒獅子とともに野田の名物となり、下町にとってもかけがえのない宝物です。平成22年、平成の大補修ともいえる改修を行い、今まで以上に素敵な金獅子をお見せします。

轟大杉みこし

このみこしは、大正14年野田市山崎の宮大工佐藤里次則壮氏の手により誕生しました。総樺作りの白木みこしで彫りの彫物は、東京柴又の帝釈天の彫物を手掛けた石川信光氏の作。台座は11.6m(3尺8寸)、高さ孔雀まで2.3m(7尺6寸)、重さは不明、担ぎ棒の長さは12m。関東のみこし、ここに有り。夏の夜ゆったりと左右に揺れる様は重量感に満ちています。

奎大杉みこし

大正10年に東京下谷稻荷町で製作された太子堂大杉みこしは、昭和15年まで祭礼の時に渡御していましたが、16年から中断していました。昭和52年に岩崎寅三氏により修理を行い、みこしを復活しました。平成3年9月のみこしパレードの参加を契機に、平成4年7月に本格的な修理をしました。また、平成26年3月にも修理し、飾り綱をこれまでの橙から紫色のものに変更しました。高さは1.5m(鳳凰部分0.55m)で重さは不明です。

響大杉みこし

担ぎ手、周囲のギャラリーの動員数ナンバーワンのきれいなみこしです。特に夜、提灯に火を灯してからの美しさは…。是非、ご覧になってください。現在のみこしは、昭和31年に市川市行徳のみこし師・後藤直光氏により製作されたものです。平成26年に58年ぶりに、市川市の中台製作所にて華麗に大修復されました。みこしの大きさは、台座から鳳凰までの高さが2.3m、担ぎ棒の長さは11.2mです。

凧大杉みこし

昭和58年7月に製作された二代目のみこしは、平成17年そして平成26年に我孫子市のみこし師・椎名正夫氏により大改築されました。延軒屋根・勾欄造りの宮神輿です。

喜大杉みこし

昭和56年に四国・徳島で制作された七光台大杉みこしは、金色に輝き豪華絢爛の美しさが特徴です。七光台の祭礼は毎年7月に行われ、盛んになっており、おまつりを通じて近隣地区を含め文化の保存と交流のシンボルとなる存在になりつつあります。

根大杉みこし

中根の大杉みこしは、昭和3年7月に市川市行徳関ヶ島のみこし師後藤正光氏の手によって製作されたものです。みこしは低部から鳳凰までの高さが1.4m、巾1.1m、本体の重さ280kg、台60kg、担ぎ棒の長さ11.5m、重さ120kgで総重量460kgであります。

蛸天王様みこし

明治38年の前みこし新築から100年目、渡御が復活してから25年目となる平成17年に新築された中里天王様みこしは樺材糸柱目の白木造り、屋根は軒唐破風の漆黒磨き塗り、天に鳳凰を頂く勇壮にて精緻極まるものとなりました。大きな時代の節目となった平成17年その大業は石に刻み後世に永く残されることと成ります。みこしの大きさは鳳凰までの高さ1.55m、巾1.5mです。

響大杉みこし

堤台の大杉みこしの御祭神は、大杉神社の総本宮である茨城県稲敷市阿波の大杉神社で、当氏子中では、享保の時代から代参を行っていたという記録があり、昔から大変信仰の厚い神社で、平成22年の10月に平成25年の伊勢神宮式年遷宮を記念し、前橋市のみこし師、小野勝氏により制作され、台輪が2.5尺(76cm)、大鳥迄の高さが1.8m、蕨手までの屋根幅が1.1mです。

上手囃子保存会

昭和初期に上手囃子保存会が結成されました。以来その保存継承に毎月2回の練習に励んでいます。中野台大杉神社の祭礼には、必ずこのお囃子が演奏され、屋台(トラック)で早朝町内を巡回しています。更に、みこしを先導し、みこしの担ぎ衆さんに勢いを付け盛り上がり役に当たっています。大晦日には鹿島神社の神楽殿でお囃子を演奏し、新年初詣者をお迎えし喜ばれています。

中里喜楽会

川間の中里の宿で生まれ育って早60年になります。当会は平成17年より新みこしと共にみこしパレードに参加させていただいています。夏祭りには、祭り囃子(投げ合い)の囃子でみこしの担ぎ衆に威勢を付け、パレードを盛り上げます。休憩時間には、めでたい場所には欠かせない「寿獅子」を演じます。始めに獅子が登場しまして、パレード中、怪我の無い様に悪霊を払い清めます。次に、大黒様が商売繁盛、子孫繁栄などの福をパレード参加者の方々に授かります様、口上を謡い、打出のこづちを打ちながら舞います。最後にひょっとこ踊りで観衆を情緒豊かな雰囲気になさせます。微力ですが、会員一同、日頃の稽古の成果を披露させていただきます。

鶴鳴はやし会

明治のはじめ頃に埼玉県の柿ノ木や荻島、また東京などから江戸囃子が伝わり、当時鶴鳴(つるじま)といわれたこの地区に伝えられ、祭り囃子として現在伝承されています。五穀豊穡を願った祭りでありましたが、それを支えた囃子、御輿の文化は、今私たち郷土の貴重な文化となっています。毎年行われる夏祭りには、御輿の渡御とともに、お囃子、ひょっとこ踊りなどが、賑やかに奏じられます。また地区に在所する福祉施設の盆踊りや慰問などにこの芸能を披露し、お年寄りの方々には大変喜ばれています。この伝統ある芸能をいつまでも伝えていこうと、後継者の育成をしながら、たゆまぬ稽古を続けています。

野田大杉ばやし社中

大杉ばやしの由来は厄除け・商売繁盛・夢叶え等で有名な茨城県稲敷市阿波本宮大杉神社の「あんば囃子」より起源を発し、本殿の囃子のメロディとは異なるもので中野台鹿島神社内の大杉神社夏期祭礼で演じられています。平成27年にはこのあんば囃子発祥470年記念式典木札奉納、そして本年度平成29年は大杉神社御鎮座1250年祭奉祝行事(10/29(日))が行われる予定で我々中野台大杉ばやし社中も本殿にて奉納演奏予定です。現在の活動状況は野田市民俗芸能連絡協議会に属し日本の伝統文化の維持推進にも寄与しています。老人ホーム、保育園等にて慰問演奏、夏期には祭礼や納涼盆踊り、みこしパレード。随時 囃子笛太鼓やってみたい方募集中！

響津久太鼓響

野田市の民族芸能として約200年の伝統を持つ「津久舞」と共に演じられる「津久囃子」をルーツに、1994年9月に創作太鼓のグループとして「響」が結成されました。樺のホール開館記念公演出演、日本太鼓フェスティバル出演、琴平神社式年大祭出演等、様々なイベントにも参加しています。また、毎年12月31日より1月1日愛宕神社と須賀神社にて奉納太鼓を演奏しています。